

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		KID ACADEMY塚口校		公表日		2025年 2月 18日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	カリキュラムとフリーの場所を分けている。	今後は、パーテーションなどの導入を検討していきたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	7	スタッフが急病などでお休みしていても他校から応援を要請できる。	人員配置については、法令を遵守しており、有資格者(保育・児童指導員など)を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	掲示物を少なくする、備品を見えないようにするなど、視覚を邪魔しない部屋作りをしている。 お手洗いに入るのに段差があるが、台を置くことで段差にならないようにしている。 こどもの動線に沿った場所に荷物を配置したり、見やすい位置に時計を配置し伝達をしやすくしている。	引き続き、お子様のわかりやすい物の配置や動線に務めていく。また今後は、敏感なお子様の対応について、現段階では空間を仕切ることはできませんが、場所を少し変える・時間を使う・声をかける職員を変える等、その時々で対応を検討していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	毎日の掃除に加え、次亜塩素酸などによる消毒等途に合わせて清掃・消毒を徹底している。 カリキュラムで使用した道具などは、消毒用トレーに入れ、消毒してから使用するようになっている。	引き続き、次亜塩素酸などによる消毒等、用途に合わせて清掃・消毒を徹底して清潔を保ち、感染症蔓延防止に徹底していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	0	8	個別の部屋はないが、個別スペースを作り個別に対応をしている。	必要に応じて、個室が必要だと感じる時があるので、今後、パーテーションの導入などを検討していきたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1	朝礼を行い、前日の振り返りや事例について共有し、解決改善・その他の配布物・予定もその際に指導員皆で確認しております。また、研修を踏まえてアップデートした知識を持って子どもたちの支援にあたることができよう努めている。	引き続き、職員が積極的に業務に参画できるよう取り組んでいく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	評価表を踏まえて、ミーティングを行っている。	引き続き、保護者等の意向等を把握し業務改善を行っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	3	朝礼や毎月のミーティングを行い、職員が発言する機会を設け意見の把握に努めている。	シフト制勤務のため、ミーティングに参加できないスタッフへの情報共有が課題。校日報に日々の職員の意見等を積極的に活用し、翌日のMTGに提案できるように改善していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5	現在は、利者・社内の2者評価をとっている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	2	適宜研修が行われている。	研修時に欠席の職員は、後日研修録画を視聴し確認している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	職員間でよく話し合い、作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	複数の職員でモニタリングを行い、全体で共有、更新している。		

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	支援計画に沿って支援している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	こどもの行動観察は分かりやすく表現するよう心掛けている。	今後も、出来るだけ分かりやすい言葉で表現できるように心掛けていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	具体的な支援内容を記載し設定されている。	子どもの発達段階に応じて必要な項目が設定されるよう、引き続きチームで支援していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	2	立案はチームで行い、お互いの意見を出し合い共有している。	基本的にチームで行っているが、シフト制の為、後日確認する職員がいる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	2	いろいろな素材を使い、様々な角度からアプローチしている。	今後も工夫をしながら支援を提供していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	1	こどもの状況に合わせて、個別活動や集団活動が行なわれている。	集団活動が必要なこどもでも利用時間によっては集団活動ができない時がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	2	ホワイトボードにその日の流れや担当、カリキュラムの内容などを記入し誰でも把握できるようにしている。	研修などで打ち合わせに十分な時間が取れない時があるので情報共有などのより良い方法を今後も模索していきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	1日のこどもの様子や気づいた点は、職員同士で報連相を行っている。	その日に振り返りができない時は、次の日の朝礼時に支援の振り返りを共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	支援後、その日のうちに日報を書いている。	日々、工夫をしながら記録をとっている。
	23	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	定期的にもモニタリングを行い職員間で見直しを行っている。	当日、会議に参加されなかった職員には回覧で確認して意見を求め、変更点があれば確認し変更している。
関係機関や保護者との	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	よく理解したものが参画している。また、会議の前に参加者が複数の他職員から聴き取りを行っている。	引き続き、こどもの状況を把握し関係機関とも連携を深めていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	地域の幼稚園、保育園等と連携している。保護者の希望があると、こちらから「園マンスリーレポート」を園に配布している。	園の希望で「マンスリーレポート」が欲しいという園があったので今後も要望に応じて配布をしていきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	2	幼稚園や保育園等で「園マンスリーレポート」を渡したり「園訪問」を行い連携を深めている。	保護者の希望により、園との間で支援内容の情報共有ができていない園と出ている園がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	6	今のところ、小学校から求められていない。	今のところ、保護者からの情報だけが進学をどうするかを聴き取っている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					

連携	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3	今のところ、センターとの連携はないが、会社内での研修の中でスーパーバイズから助言等を受ける機会がある。	積極的に質問が出来るように疑問に思ったことをまとめておく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	8	今のところ、行われていない。	今後、検討していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	1	帰りの際に保護者に申し送りを行っており、保護者から希望があれば懇談を行っている。	個別支援計画時以外でも懇談を気軽に受け付けているが、利用されているのは数人だけなのでもっと利用してもらえようように声をかけていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	3	茶話会を定期的に開催している。	「茶話会」の利用者が少ないため、参加者を増やしていくことが課題だと感じる。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	丁寧に行っている。	引き続き、丁寧に行っていきたい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	モニタリング表を作成し、子どもや家族の意向を確認する機会を設けている。また、個別支援計画書(原案)を作成し、保護者との懇談時等での聞き取り修正を行っている。	引き続き、こどもや家族に寄り添って支援を行っている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	支援計画は丁寧に説明を行い同意を得ている。	引き続き、保護者の同意を得て支援計画を作成していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	適切に相談に応じている。定期的には、個別新計画の更新時に日頃の子育ての様子を聴き取り助言や支援を行っている。	保護者の質問やお困りごとは職員間で共有し、今後の支援を話し合っていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	保護者同士で話し合う機会「茶話会」を設けている。	参加者が少ないのが課題なので今後はより多くの方に参加してもらえようなものを考えていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	相談や申し入れがあった際には適切な対応している。	電話などでも疑問や相談などを受け付けている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	2	毎回、カリキュラムノートには活動の様子を記載している。また、定期的に保護者には「マンスリーレポート」をお渡しこどもの様子を伝えている。	引き続き、保護者にお伝えしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	1	閉所時にはパソコンやアイパットなどの機器などや個人情報に関するものは全て鍵付き書庫に保管している。懇談の際には個人のファイルは見えないように配慮しておき場所に注意している。	引き続き、個人情報には十分注意を払い取り扱っていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	1	言葉を丁寧に伝えたり、言葉だけではなくジェスチャーや身振りを職員間で共有している。	視覚優位で絵や文字での指示が必要であれば、必要に応じて作成していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7	特に行っていない。	今後の事業運営の課題として考えていく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	定期的に訓練を行っている。	引き続き、定期的に訓練を行っていく。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	定期的に訓練を行っている。	引き続き、定期的に訓練を行っていく。

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	1	こどもの状況は職員間で共有している。	事前に、保護者から聞いているが、随時、変更があればアップデートしていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	4	食事の提供はないので特に問題はない。	食事の提供はなく水やお茶を飲むお子様しかいないので、食物アレルギーは特に問題はない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1	安全計画を作成し、訓練等を行っている。	実際の場面でも訓練通りに動けるように、緊張感をもって今後も訓練を行っていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取り組み内容について、家族等へ周知しているか。	7	1	契約時に保護者に説明している。また、毎月「マンスリーレポート」に毎月の取り組み内容についてお知らせしている。	今後も、年齢や季節に合った取り組みを「マンスリーレポート」でお知らせしていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハットは職員間で共有し、再発防止に向けて検討している。	今後も、ヒヤリハットは職員間で話し合い、再発防止に向けて取り組んでいく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	虐待防止のために、研修を行い話し合う機会を設け、適切な対応を行っている。	今後も、虐待防止の研修を重ね、職員一人一人が認識を強く持ち、子どもの心と体の安全に取り組んでいく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	1	身体拘束に関して研修を行い、職員間でどのような場合が身体拘束に当たるかを事前に話し合っている。	支援計画書に記載が必要なこどもには、説明し記載していく。